

料金別納郵便



鈴木一弘 染織展 こわたり さらさ 古渡更紗・ざれ 竹屋町・名物裂

令和3年5月16日(日)~22日(土) 会期中無休

開廊時間：午前11時~午後7時(最終日22日は午後5時まで)

作家在廊日：会期中、全日在廊予定

■ 鈴木一弘さんによる裂地のお話の会 弊廊までお電話かメール↓にてお申込下さいませ
日時/会期中全日 13:00~13:30、会費/無料、定員/各日共に5名様まで

略歴 昭和25年 京都市中京区現住所に生まれる
平成12年 京都美術工芸展 入選
平成14年 第17回シルク博物館 シルク博物館賞受賞
平成18年 「名物裂事典」発刊に編集長として参画
平成23年 日本橋三越本店、松坂屋名古屋本店にて 個展開催
平成27年 台湾国立故宫博物院に誰ヶ袖屏風袖、青磁裂象嵌花瓶納入
令和元年 「大航海時代：世界交易が茶の湯にもたらしたもの」講演(サンフランシスコ州立大学)
令和2年 NHK歴史秘話ヒストリア「謎の茶碗はなにを語る」出演
令和3年 淡交「なごみ」2月号「裂選びの楽しみ」掲載
日本経済新聞「茶人好み『名物裂』途切れぬ美」掲載

一年ぶりに鈴木一弘 染織展を開催致します。染織とは、布を染めたり織ったりする技術の事で、裂(きれ)とは、古代織物の断片の事を言います。一弘さんは、お祖父様の時代から三代に亘り、裂の蒐集と研究を重ねてきました。今は、数百年前にデザインされた染織品を復原し、帛紗、数寄屋袋、竹屋町掛け軸など、美しき染織作品を生み出しています。

サブタイトルに記した「古渡更紗」とは、17世紀初頭に渡来したインド製の染物で、「竹屋町」とは、京都の竹屋町で作ったとされる紗の生地(金箔紙と色系でぬった裂地の事。「名物裂」とは、400年前の中国から渡来した織物で、茶人が愛蔵した逸品です。どれも一弘さんの十八番の裂地です。

さて、本展では、これらの裂地を用いた最新作の染織作品、約40点を発表します。数百年前の中国やインドで生み出されたデザインが、何故、令和の我々の心に響くのか、驚きを禁じ得ません。コロナ禍の最中のご案内で恐縮ですが、ご清覧頂ければ幸いです。

店主 安田尚史

柿屋ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

160-0022 東京都新宿区新宿3-37-11 安与ビルB2階
03-3352-5118 gallery@kakiden.com
https://www.kakiden.com/gallery/

公式Instagram



コロナ禍の影響で、会期と営業時間の変更や、オンライン展示のみの可能性もございます。
お手間で恐縮ですが、弊廊ホームページや公式SNSにて、最新情報をご確認頂ければ助かります。

